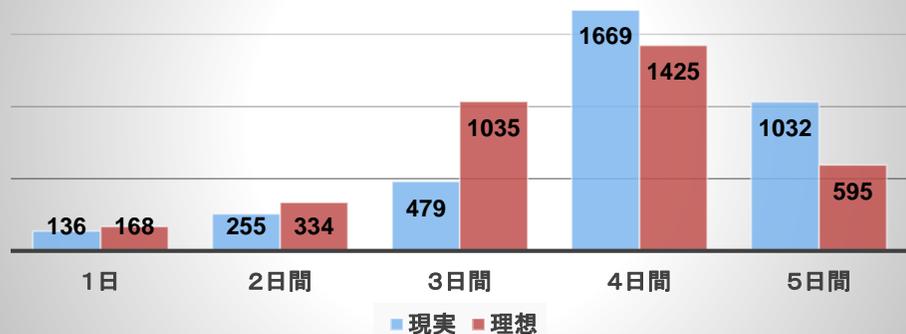


4 生徒の実態

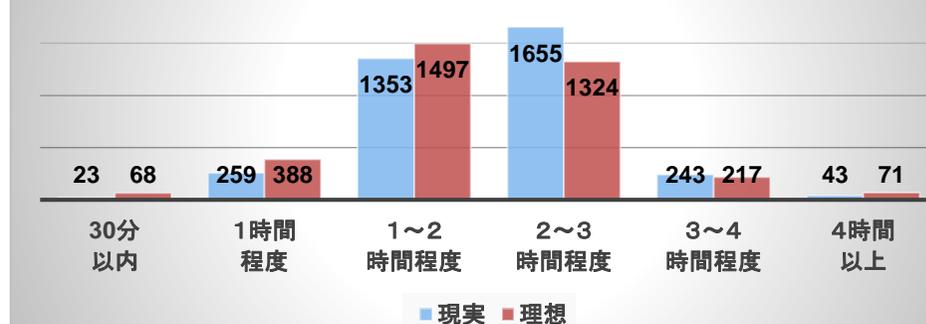
▶ 活動頻度の実態と理想

平日の活動は、現在の状況をちょうどよいと思う傾向、土日については、より緩やかになるよう求める傾向にある。

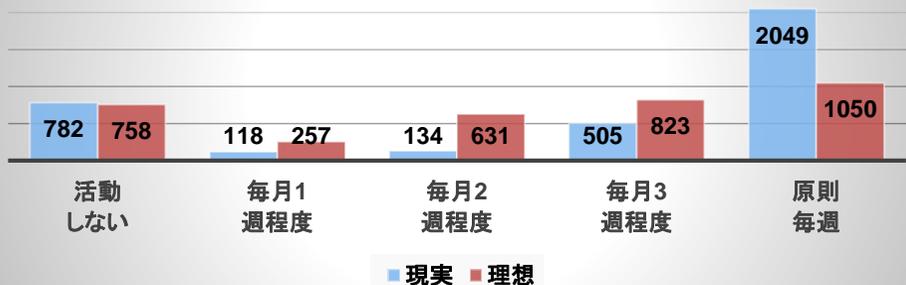
平日の活動日数



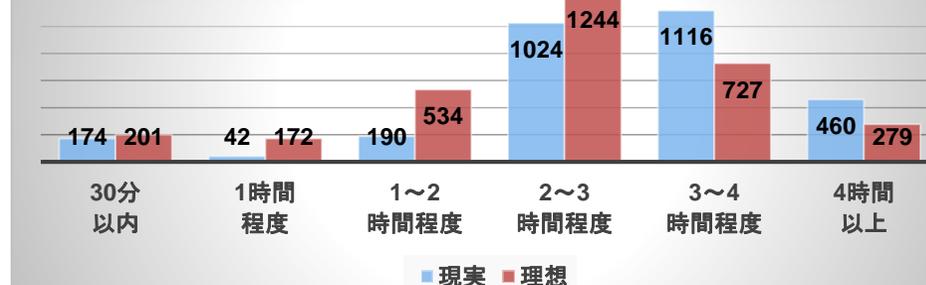
平日の活動時間



土日の活動頻度



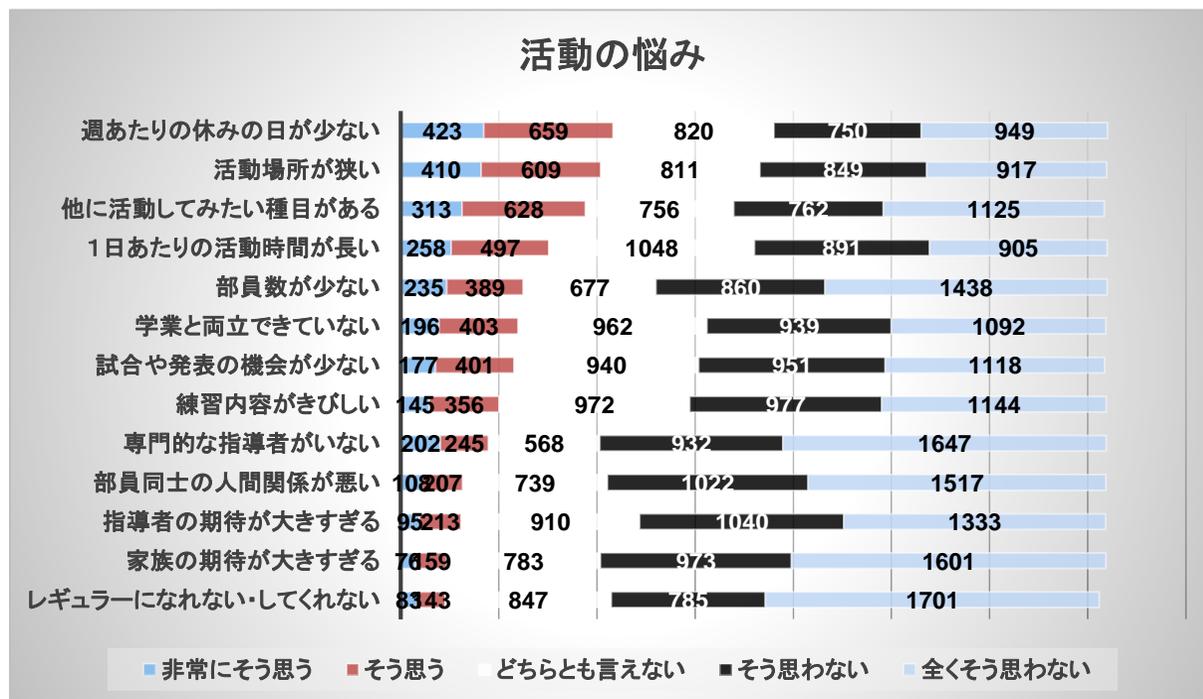
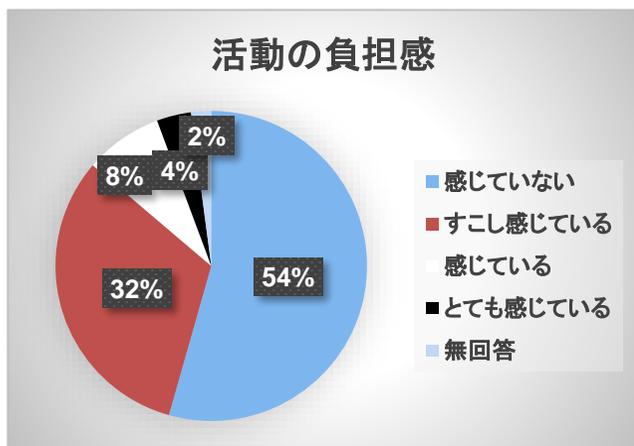
土日の活動時間



4 生徒の実態

➤ 活動の負担感

現在の活動に対して負担を感じてないのは全体の5割強。活動上の悩みについては、休みが少ない・活動時間が長いという声など様々あるが、悩みの選択肢に対しては否定的な声がいずれも半数を超える結果となった。

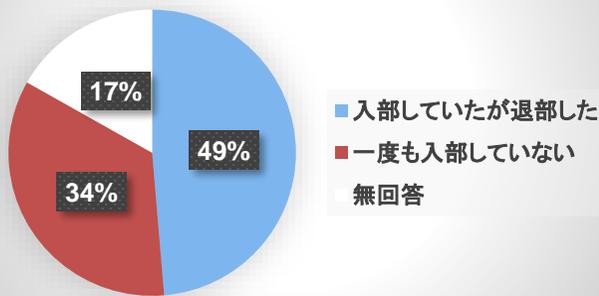


4 生徒の実態

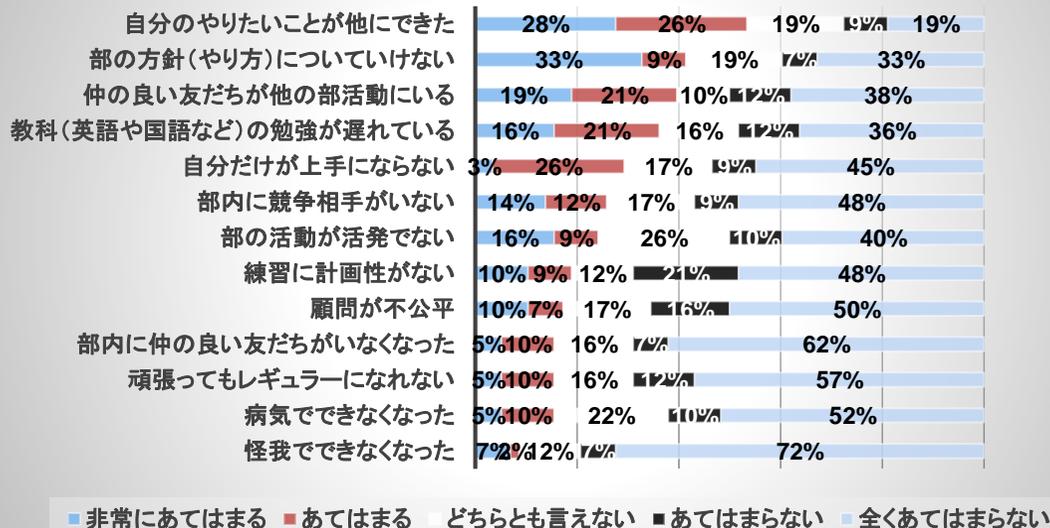
➤ 部活動をしていない生徒の思い

退部した理由は、他にやりたいことがあるという理由のほか、何らかのマイナス要因が発生したことが理由とされている。
一度も入部していない理由は、興味のある活動がないという理由が上位であった。

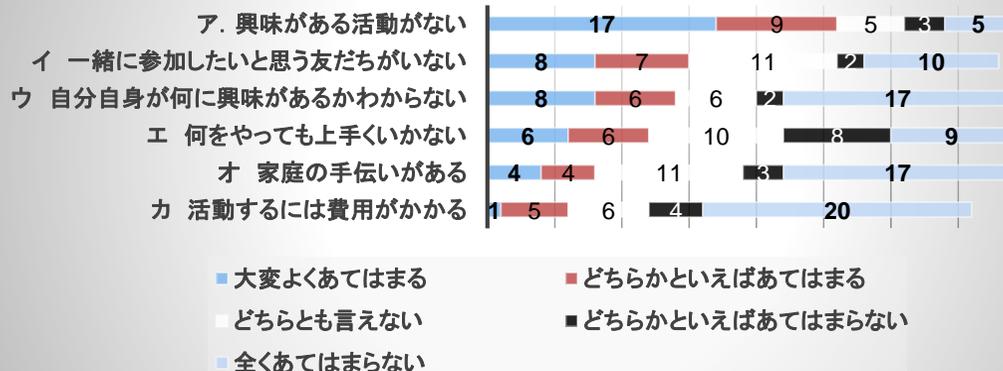
内訳



入部していたが退部した理由



一度も入部していない理由

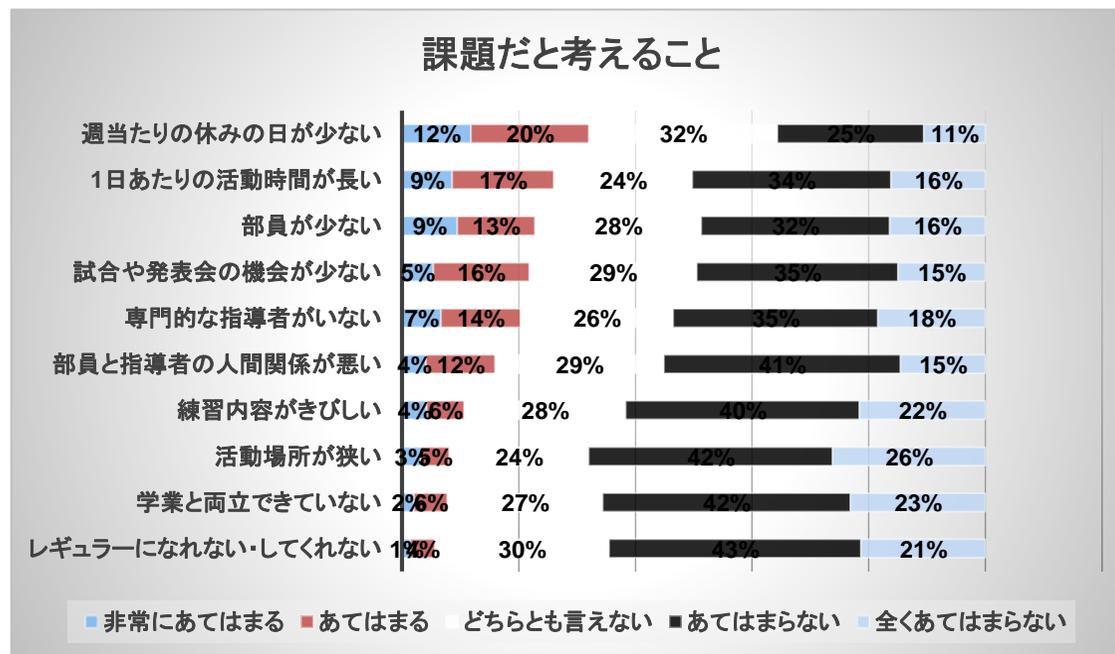
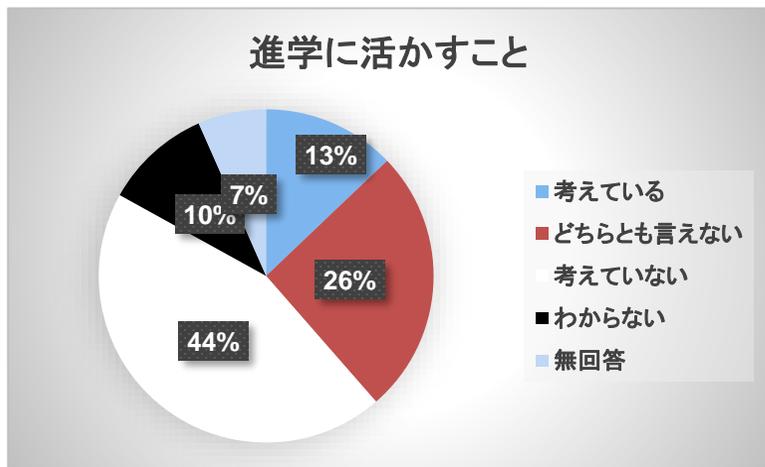
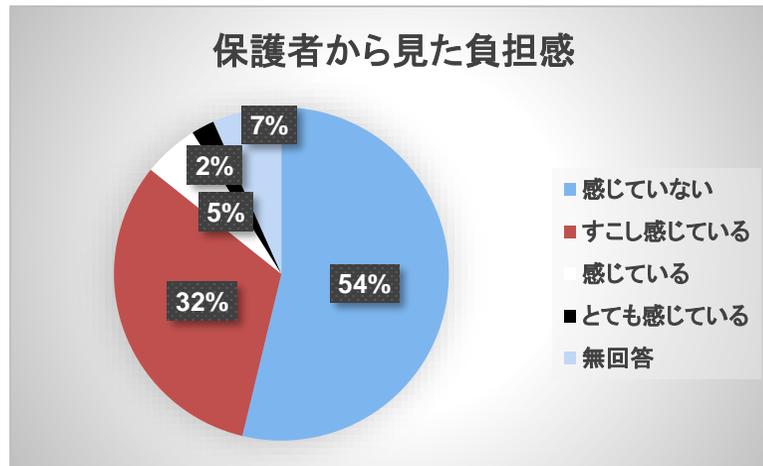


4 保護者の実態

▶ 活動に対する思い

子どもの様子から負担感を感じるのは半数弱。活動時間や日数を課題と考える回答が上位であった。

将来の進学に活かしたいとする生徒が3割存在したのに対して、保護者は1割強にとどまる結果となった。

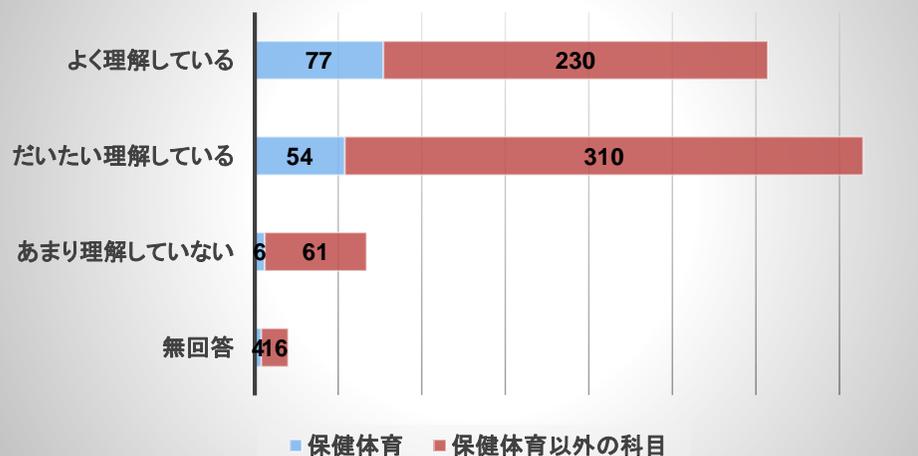


5 本市部活動指針の浸透

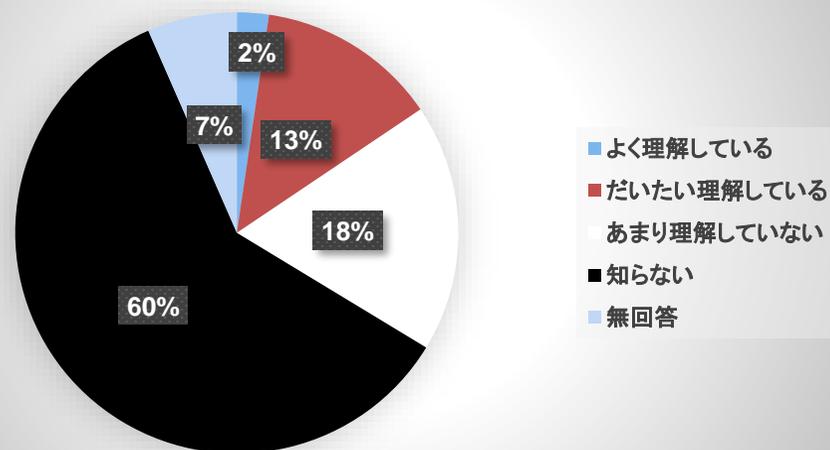
➤ 教職員と保護者の理解度

「大阪市部活動指針 ～プレイヤーズファースト」の内容をどのくらい理解しているかという設問に対する回答として、教職員は4割が「よく理解している」5割弱が「だいたい理解している」としており、なかでも保健体育を専門にする教員を中心に、よく浸透が図られている。保護者については、6割が「知らない」との回答であり、学校のほかに保護者への趣旨の周知を継続的に行っていく必要がある。

教職員の理解



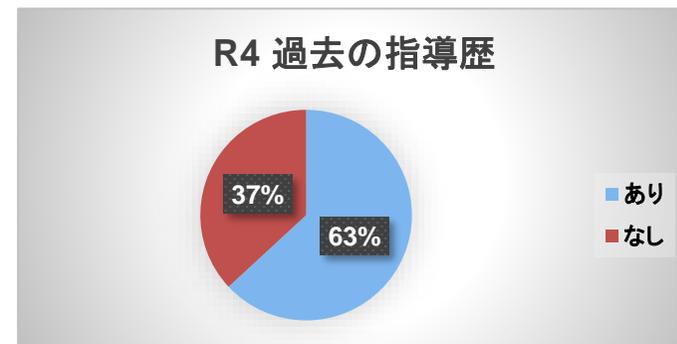
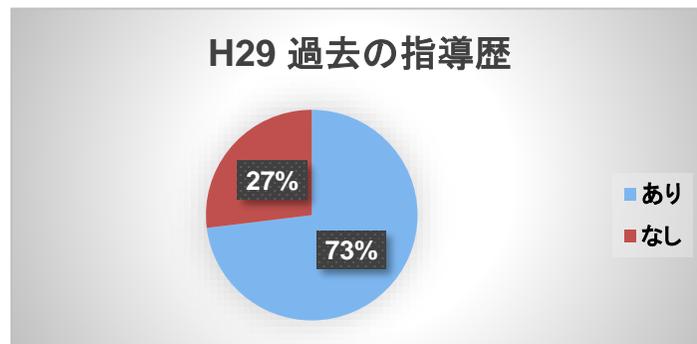
保護者の理解



1 教職員の実態

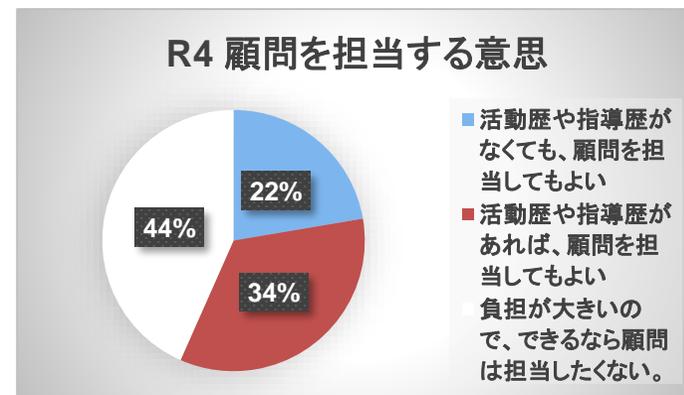
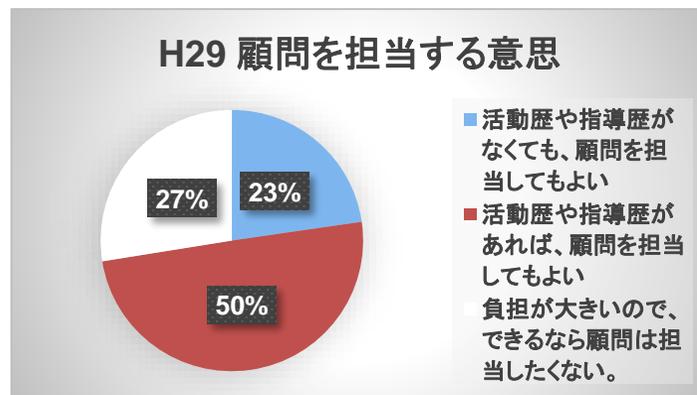
➤ 担当する部活動の過去の指導歴の有無

H29アンケート調査との比較では、10ポイント減少。指導歴がないまま顧問を担当する教員の割合が増加している。



➤ 顧問を担当する際の考え

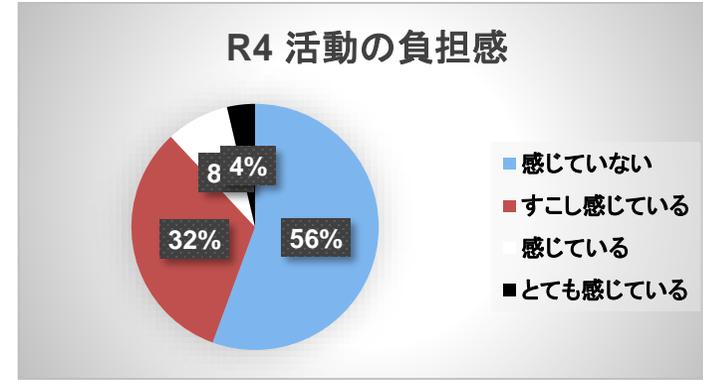
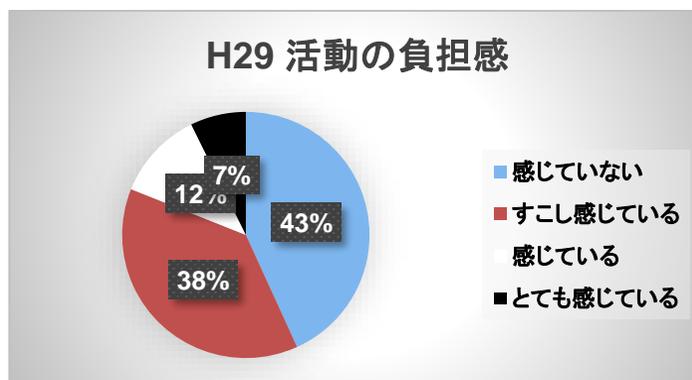
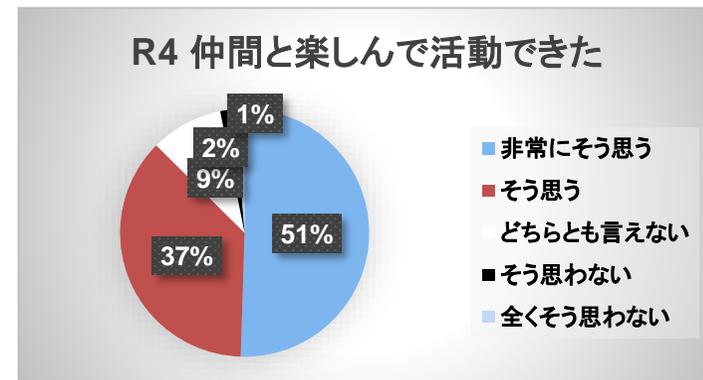
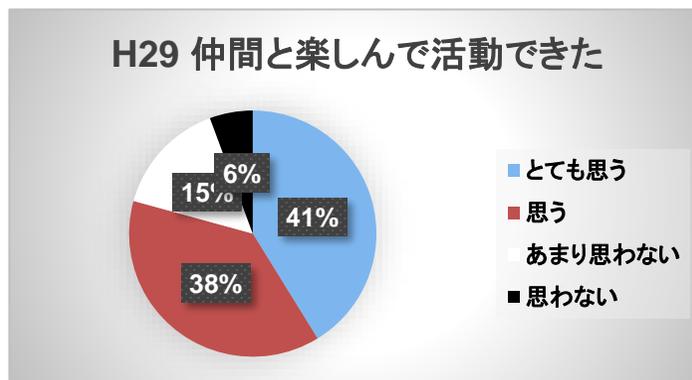
➤ H29 アンケート調査との比較では、できるなら顧問を担当したくないとする層が17ポイント増加。一方、指導歴等がなくても構わないという教員は、2割強で変わらず。



2 生徒の実態

➤ 部活動に対する評価・負担感

H29アンケート調査との比較では、仲間と楽しんで活動できたとする層が、10ポイント増、負担感を感じていないとする回答も、13ポイント増となった。



取組みのねらい

生徒にとって望ましいスポーツ活動を地域が支える持続可能なモデルとして休日の指導を望まない教員が休日の部活動に従事しなくてもよい状況をめざして、令和3年度からスタート。

桜宮スポーツクラブ（仮称）とは…

国のモデル事業の趣旨に独自の価値をプラスしたスポーツ体験モデル

- ・ 中学校での所属に関係なく、5つのスポーツ種目から自由に選択
- ・ ボート、障がいの有無に関係なく一緒に楽しむ水泳、ダンスゆる部などユニークなメニュー
- ・ 都島区内の中学校の横の連携、高校生との交流、高校のカリキュラムに即した特色化
- ・ アスリートや地域貢献企業との積極的なコラボ

専門的な指導やユニークな活動の場、他校生との協働の場として、多様な価値観と経験の場を提供します

競技スポーツ中心の指導観を変えていく・・・身体を動かす、知る、科学する・・・スポーツと教育との多様な出会いの場を創出します

中学校

地域
保護者

子どもを地域で育てる・・・保護者や地域の皆様のご理解・ご協力を得て、地域スポーツ活動により健康生活への関心を高め、生涯スポーツの一層の充実に貢献します

桜宮高のプレイヤーズファーストのレガシー、充実したスポーツ施設と立地環境を活かした特色化を推進します

高校生の視野を広げる教育活動の場、地域のスポーツ活動の拠点として、地域に愛される魅力ある高校づくりを進めます

高校

大学
企業

大学連携や地域貢献のご支援をいただき、持続可能な運営をめざします
スポーツのすそ野を広げ、スポーツ活動を通じた地域・地域貢献企業との連携を進めます

子どもを中心としたwin-winの関係

今年度の取組みのポイント

- …拠点の桜宮高校まで遠い、もっと身近なところでも活動できないか？
 - 桜宮高校での中高連携タイプに加えて、近隣中学校同士で実施するタイプ等も導入
- …中学校の教員でも活動に参加できないか？
 - 中学校教員も希望すれば兼職兼業で指導に従事可
- …専門的な指導やユニークな活動を充実して魅力アップができないか？
 - 水泳やダンスの特別企画に加えてプロ・スポーツチームの指導を追加

提供コマ数が41、現エントリー数が延べ423人に（昨年度延べ153名が参加）

7/30、8/6、9/11、10/8、10/15、10/22までに**延べ203名**が参加。

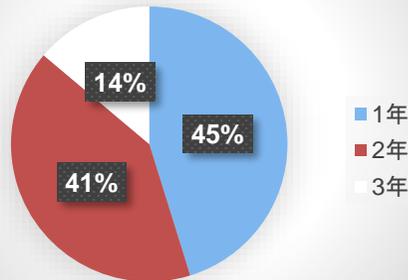
・バスケットボール男子	52名	・バスケットボール女子	38名
・バレーボール女子	49名	・サッカー女子	2名
・サッカー男女	34名	・ボート男女	9名
・陸上男女	4名	・ダンス教室	15名

2 本市モデル事業「桜宮スポーツクラブ」 中間報告 20

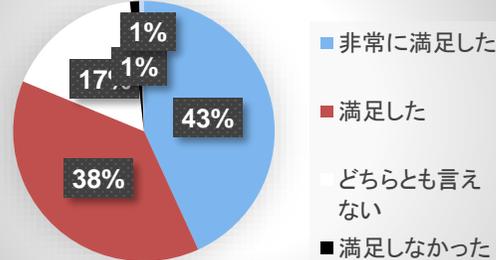
参加188名へのアンケート(10月22日時点)

- 昨年参加してくれた多くの生徒が今年も参加し、活動への満足度は81%が肯定評価
- 参加生徒の71%が今後も継続して参加したいと回答

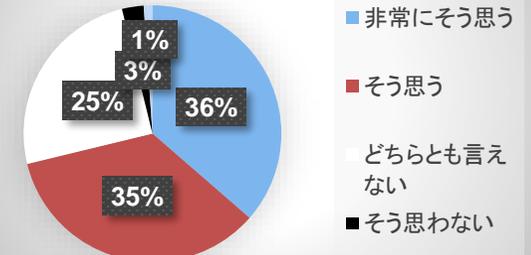
学年の内訳



活動への満足度



継続参加の希望



《参加生徒の声》

- いつもと違う指導を受け、いろいろな考え方があるんだと思いますごく楽しかった。自分たちで話し合いをよくする方法を見つける、というのも良かった
- 高校生の先輩がいっぱい話をしてくれた、ボートはめったにできないので楽しかった
- 他の部活の人とできて、楽しめた。次はもっとたくさんの人と練習したい
- 今までこのような活動をしたことがなかったので楽しかった
- 普段は一生懸命バレーを集中して練習することが多いが、この機会を得たことでバレーボールを改めて楽しく感じる事ができた